

2011 総合メディアセンターカフェ

A Cafe for The General Media Center

AD13 菊本 浩一郎
指導教員 比留間 真

1. 研究目的

サレジオ高専の総合メディアセンターは将来的に地域に開放する事を前提に設計されている。それに伴い学生は勿論、外来者にも気軽に立ち寄ってもらえる場が必要ではないかと私は考えた。

そこで休憩や情報交換の場としての使い方以外にも学生がリラックスしながら勉学に励む場所として学内カフェの提案を行う。

2. 調査と分析

●カフェ設置に対するインタビュー調査

サレジオ高専の学生十数名にインタビュー調査をした結果、「くつろぎの場が増えるのは嬉しい」「安ければ利用したい」との意見がよく目立った。

●多摩美術大学のカフェ

厨房は2m×3m程で、客席は10席程、床、壁面やインテリアなどほぼすべてが白で統一された日当たりのいい居心地の良い空間に仕上がっている。

●サレジオ高専内でカフェ設置に適した場所

外部からのアクセス、事務室・募集室・図書館・PC室など学校側にとっても有益な設備が集まり、普段は過疎化しているという点を考慮し、1Fエントランス付近をカフェ設置場所に選定した。

3. コンセプトの立案

「学内外の情報を共有できる地域に開かれた学校の顔としてのカフェ」

●メディアセンターを使用する人に学校プロジェクトや校外活動などをプレゼンテーションできる

●外来者や学生をメインターゲットとした休憩やくつろぎの為の空間

4. デザイン展開

カフェを設置する場所は受付隣のテラスを想定した。さらに、重要な設備である就職・進学キャリアセンターも移動し、総合メディアセンターとしての価値をさらに増強させ、そこに隣り合う形で利用者のためのカフェを併設する。

●カフェの雰囲気

学校の玄関は初めて訪れた人は緊張してしまうような雰囲気があり、くつろぎや安らぎのための場としては向かないのでカフェを曲面を多用したデザインにし、年齢を選ばず好まれる明るい木目調

の柔らかい雰囲気の場所とした。また、木製ルーバーをアーチ状に並べることにより校舎外装との調和を図りつつ、高すぎる天井を視覚的に適度な高さに抑え、窓側は日よけとして、さらに格子のような日本人の美意識に合った曖昧に空間を仕切るパーティションとしての役割を果たす。

●ユーザーに対する配慮

一人で時間をつぶしたり、雑誌や本を読んだりしたい人の為に明るい窓際の一人用席を用意し、勉強や打ち合わせに使いたいという人にはキッチン近くの2人用席や中央の4人席を、仲間同士のおしゃべりなどに使いたい場合は壁際のベンチ席などユーザーの人数や用途によって使い分けられるよう配慮した。また、地域の人や入学希望者の興味や関心を得るために校内情報や学校のプロモーションを常時放送するディスプレイを配置した。

5. 完成図



6. 結論

現校長である小島知博先生にお話を伺ったところ「本気で採用する可能性もある」との高い評価を得た。校長は学校を地域に開放していない事や、学校にくつろぎの場がないことに不満を抱いており、「こういうところでコーヒーを飲みながら会議をしたい」「木の内装や曲線のデザインが良い」との感想や「風力発電などでエネルギーを補えば運営のコストダウンや電機科などの宣伝にもつながる」と学校全体からの視点で見た意見も頂いた。

7. 参考URL

カフェ経営News

<http://homepage1.nifty.com/lucy-co/archives.html>